

# 三菱重工 長崎造船所

外国語学部 中国語学科4年 佐野 圭祐

## 概要

今回、私が取材したのは、明治日本の産業革命の造船に関わる分野です。海洋国家である日本にとって、船とは今も昔も人・物を運ぶ重要なツールでした。そんな造船にスポットを当てて紹介していきたいと考えています。産業革命遺産のうちの4つは三菱重工長崎造船所内にある施設として一つは三菱重工長崎造船所の施設で現在は敷地外にある施設です。明治日本の産業革命遺産に登録されたもののうち、「ジャイアントカンチレバークレーン」「旧木型場」「第三船渠」「占勝閣」の4つが三菱重工長崎造船所。この4つのうち「ジャイアントカンチレバークレーン」と「第三船渠」は現在も現役で稼働している稼働遺産です。そして「旧木型場」は史料館として使われています。

## 三菱重工長崎造船所とは

1853年に日本が開国をし、海外から国を守るために海軍を創設することとなりました。そこで開国前より関わりのあるオランダに造船所の創設を依頼し、1861年にハルデスが長崎造船所の元となる日本初の近代的洋式工場である長崎製鉄所を完成させました。当初は武器を作るとい

目的で作られましたが、実質的な役割は船を造ることにありました。時代が江戸から明治にかわり、官営となり1884年に三菱の経営となり、現在に続いています。

先日完成した新型LNG船「寿老人」や現在も大型客船を建造中であり、その造船技術は世界に誇るものとなっています。

開国間もない日本。軍艦の建造技術もない状態から始まり、欧米諸国と並ぶまでに上り詰めた日本の海軍力の始まりであり、支え続けているのがこの三菱重工長崎造船所なのです。

まずここでは、三菱重工長崎造船所内にある世界遺産について詳しく説明していきたいと思えます。

## ジャイアントカンチレバークレーン

三菱重工長崎造船所内にあり、また、長崎港のあらゆる場所から見えるのがこの、ジャイアントカンチレバークレーンです。日本初の電動クレーンであり、その大きさは、高さ62メートル、横幅75メートルにも及ぶ巨大な建造物です。最大150トンもの重さのものを吊り上げる能力があり、現在も大きな荷物を積み下ろしする際に活躍しています。この施設は非公開施設となっています。



すが、同じく世界遺産であるグラバー園や史料館に向かう途中その他三菱重工長崎造船所が見える場所から見ることができます。遠目で見ることはできますが、実際近くで見るとその大きさに驚き、当時の技術でここまでものを作ることができるのかと思うほどです。

## 旧木型場

この旧木型場は三菱重工長崎造船所内に存在する最も古い建物です。1898年に鑄物工場に併設する形で建設されました。木型場は鑄物を作るために金属を流し込む鑄型を作る際に、木で模型を作るための場所です。現在は木型場としての役目を終え1985年に史料館として生まれ変わっています。

三菱重工長崎造船所内唯一の公開施設であり、その建物と内部の資料が歴史を物語っています。建物内部は当時の雰囲気のをのこしています。見学には事前に予約が必要です。

## 第三船渠

船渠とは、船を建造したり修理したりするための場所です。ドックとも呼ばれます。5年に及ぶ大工事を経て1905年に完成した第三船渠は、当時は東洋で最大の大きさを誇りました。同じく明治時代に作られた渠第一船渠、第二船渠はそれぞれ1963年、1972年にその役目を終えました。第三船渠は現在も現役で稼働中です。この施設は非公開施設となっていますので、近くで見ることができません。

## 占勝閣

三菱重工長崎造船所内の丘にある木造建築である占勝閣。1904年に長崎造船所所長の莊田平五郎の邸宅として完成しました。「風光景勝を占める」という意味からこの占勝閣と名がつけられ、現在は進水式の祝賀会などに使われており、造船所の社員でも定年退職時しか見学することのできない貴重な建物です。

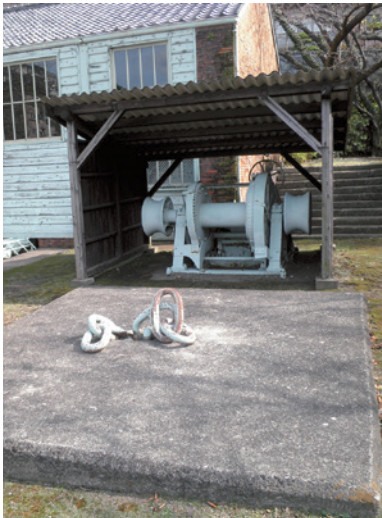
これらの三菱重工長崎造船所は百年以上の歴史を持ち、第二次世界大戦の空襲や、原子爆弾などの被害を受けるものの、それらに耐え現在も姿を残す貴重な施設となっています。

## 小菅修船場

小菅修船場は前に紹介した4つの遺産と同じく三菱重工工業の施設です。しかし、その所在地は三菱重工長崎造船所ではなく、その対岸に位置しています。この小菅修船場は幕末に外国と貿易をしていた船の修理をする場所が長崎になく無かったため、グラバーと薩摩藩によって1866年に計画が立てられ、英国から技術者を招き、建設をしました。1869年に完成した小菅修船場は洋式の近代的なドックであり、ソロバンドック



と呼ばれる潮の満ち引きを利用して、引かれたレールによって船を曳きあげて修理をするという仕組みのものでした。



## 観光の勧め

今回私が紹介してきた五つの世界遺産。そのうち公開されていて間近で見ることができるのは「旧木型場」と「小菅修船場」です。旧木型場は現在史料館となっており予約すればだれでも見学することができます。施設維持費として別途800円が必要となります。内部は木型場として機能していたころの様子を伺うことができる場所もあります。そして資料は時代順に三菱重工長崎造船所を巡ることができるようになっており、また実際に作業で使われていた道具を見て、触ることもできます。そのほかにも三菱創業者の岩崎弥太郎とその一族に関わるものなど、貴重な資料があり、一見の価値があります。史料館に向かう途中でジャイアントカンチレバークレーンを見ることができ、このジャイアントカンチレバークレーンは市内の様々なところから見えますが、ここが一番間近で見ることができます。残念ながら「占勝閣」と「第三船渠」は非公開施設のため近くで見ることができません。

そして今回私が見た中で一番のおすすめは「小菅修船場」です。ソロバンドックと呼ばれる形をした船を修理するための施設。これは三菱重工長崎造船所内に無く、その対岸に位置しているので、

バスもしくは徒歩でいくことになります。なぜこの施設が一番のおすすめなのか、それは実際に使われていた施設を間近で見ることができからです。

船が好きな方なら必ず楽しめるはずです。実際に使われていたドックをここまで近くで見ることがなかなかできません。また私が行った時には人も少なく、案内人の方からたくさんのお話を伺うことができました。周りに自然もあふれていて落ち着いて見学することができます。入場は無料です

今回私は、移動はすべて徒歩でした。少し距離があるものの、長崎市内をゆっくり見ながら移動できるので行かれた際は徒歩で移動するのも良いかもしれません。

## まとめ

今回、三菱重工長崎造船所内の4つの遺産「ジャイアントカンチレバークレーン」「旧木型場」「第三船渠」「占勝閣」と小菅修船場を紹介しました。他にも長崎の産業革命遺産はたくさんあるので、それは他のメンバーの記事をお読みください。私が担当した造船というテーマ、そして主に扱った三菱重工長崎造船所はたくさんさんの船を作っています。その中でも有名なのは戦艦大和の同型艦武蔵

## 旅の感想

です。そのほかにも多くの有名な船を作っている  
ので、それは史料館で詳しく知ることができます。  
それぞれの遺産が深い歴史を感じさせ、世界遺産  
として納得の施設でした。

今回私は初の九州でした。そして私が造船をテー  
マに選んだのは私自身船に興味があったからです。  
実際取材をする中で、自分の趣味に脱線してしま  
いそうになるのが大変でした。ですが、自分の興  
味のあるものと取材も捗り、記事の内容もよく  
思いつきました。取材した中で私が最も興味を惹  
かれたのは小菅修船場です。静かなところにポツ  
ンとあり、寂しげな雰囲気をしています。一見、  
世界遺産なのかと疑問に思ってしまうのですが、  
その施設は当時の痕跡を強く残し、その静かさ  
と人の少なさが世界遺産を落着いてじっくり見ら  
れるという素晴らしい環境を生み出していました。  
造船関係のものをを見ていて実際の船を見たく  
なった方は同じ長崎県内の佐世保で海上自衛隊の  
イージス艦や米海軍の揚陸艦など様々な船を見る  
ことができます。もちろん三菱重工長崎造船所で  
建造された艦も見ることができます。三菱重工長  
崎造船所で知識を得た後に見ることで今までと

違った目線で見ることができます。  
船が好きという方はぜひこの記事を参考に世界  
遺産を巡ってみてください。

